



# Via Latina 22

2022年2月 307号

## 総本部よりのお知らせーマリア会

### スペイン管区での初誓願式

2022年1月8日、José Enrique Méndezはスペイン管区の修道士として初誓願を宣立しました。誓願式は、2年前にJosé Enriqueがキューバから来て以来、養成を受けてきたサラゴサの柱の聖母修練院の隣にあるバホ・アラゴン中学校の聖堂で行われました。誓願式はスペイン管区長、Iñaki Sarasua師によって司式され、彼が誓願を受け入れました。



José Enrique Méndez士 (立って左より2番目)  
スペインの管区長評議員会のメンバーに囲まれて

パンデミックのために出席者が制限されているにも拘わらず、多くのマリア会員とサラゴサで彼がすごした時期に関わってきたマリアニスト家族メンバーがJosé Enriqueを見守りました。出席出来なかった人たち、特にキューバの家族と友人たちのために式典はインターネットでライブ配信されました。それは[このリンク](#)で見ることが出来ます。

José Enriqueは今月、キューバのピナル・デル・リオ共同体に加わり、そこで彼は大学の学業を始めます。彼は、この共同体で既に生活しているスペイン管区のブラザーたちと、この島でのマリアニスト宣教活動に加わります。

## インド従属地区での終生誓願式

1月8日、Pulkit Minj士がラーンチー、Nirmal Deepにて終生誓願を宣立しました。インド従属地区長、Sudhir Kujur師がミサ祭儀で誓願式を執り行い、USA管区長Oscar Vasquez師の代理で誓願を受け入れました。



Pulkit Minj士 両親、地区長のSudhir Kujur師、  
霊生部長のNitta Prasad師、教育部長のSurkit Tirkey士とともに

Covid対応への政府の新たな規則によって、出席者の人数を制限して終生誓願式を簡素化するよう要請されました。修練院共同体のスタッフは有意義なかたちで式典を計画実行する上で非常にたすけとなりました。マリアニスト家族の男女両修道会の数名の会員たち、および友人たちがこの式典に参列しました。

## 東アフリカ地区での終生誓願式

2022年1月22日、福者ヨゼフ・シャミナード師の祝日に、数百人もの人たちがケニア、リムルのマリアニスト修練院に集まり、Emmanuel Saopa士とStanley Gwiyanga士がマリア会の終生誓願を宣立しました。



左より（後）霊生部長のMichael Otieno師、地区長のStephen Wanyoike師、  
（前）財務部長のGodfrey Ssenyomo士、Stanley Gwiyanga士、Emmanuel Saopa士

地区長、Stephen Wanyoike師が福音書のカナの婚宴について思いめぐらしながら、次のように述べました：“マリアは私たちが日々の生活において為すべきことにおいて私たち全てにとって素晴らしいお手本です、そして信仰のことで悩む時、私たちはとても優しく慈悲深いマリアのところに向かいます、マリアのもとに行きなさい、なぜならマリアがおられるところではどこであれキリストを見出すからです。” この2名のブラザーに向けて地区長は故Maurice Otunga枢機卿の言葉を引用しました。曰く“もしイエスがあなた方の生活の中心でないなら、他の誰かが或いは何かが中心となるでしょう。”

マリアニスト家族、終生誓願者の家族メンバーと友人たちがミサ後集まり、お祝いの食事と催しものを皆で分かち合いました。

---

## インド従属地区での司祭叙階式

1月28日、Bernard Moras司教閣下がベンガルールの幼きイエス教会でマリア会Santhosh Savarimuthu助祭を司祭へ叙階しました。家族メンバー、マリア会員、友人たちそして小教区の人たち、合わせて約200名が叙階式に参列し、式は深い尊敬と献身の念をもって行われました。



Santhosh Savarimuthu師 両親、インド地区の地区長評議員とともに

同時に政府の現行Covid規制は注意深く守られました。式典は招待者皆へのお祝いの会食で終了しました。叙階されたSanthosh神父にお祝い申し上げます。

---

## シャミナード国際神学校にて3名の助祭叙階式

2022年1月8日、Via Latina 22の柱の聖母聖堂にて私たちの神学生3名が助祭に叙階されました；Mawé Anselme Agbessi(トーゴ)、Peter Kulandai Yesu(インド)、そしてGeorge Stifen Majhi (インド)です。今年もまたCovid 状況のために叙階式への出席者数は削減されました。しかしながらそれは参列者一人ひとりが叙階式の祭儀に熱心に与るのに何の障害もありませんでした。ローマ教皇庁教理省長官、Luis Francisco Ladaria枢機卿が叙階式を執り行いました。





左より Anselme Agbessi士、George Majhi士  
Luis Ladaria枢機卿とPeter Kulandai士

彼の深みのある言葉と親しげで飾りのない話しぶりが叙階式に相応しい雰囲気をかもしだし助けと成りました。ローマのマリアの御名小教区の聖歌隊が祈りを伴う聖歌を添えました。いつものように、Via Latinaの2つの共同体の会員たちがこの式典の準備と実行に携わりました。それはインターネットでライブ配信されました、[このクリックで繋がります](#)。

Anselmeと PeterそしてGeorgeにとって、これは司祭職への道での決定的な一歩となります。助祭として、彼らは“奉仕のドアを通して”叙階された役務へ入って来ました、そして、これ以降、この役務は常にそれを実り豊かなものとするために彼らがたどる道程とならなければなりません。

マリア会はこれら3名の新聖職者という賜物を主から賜った事を喜び、そして彼らの寛大で忠実な応答に対して感謝します。私たちは彼らの召命を目覚めさせ育てた信仰の基盤である出身行政単位と彼らの家族の皆さんにお祝い申し上げます。

---

## 2022年1月22日（土）～2023年1月22日（日） コートジボワールのマリアニスト設立60周年記念式典

2022年1月23日（日曜日）、コートジボワールに最初のマリア会員が到着してからの60周年記念式典が始まりました。それはトレイックビル（アビジャン）の聖ドンボスコ中学校と隣のノートルダム小教区に於いて、創立者シャミナード師の記念日に始まりました。ミサの祭儀はコルホゴ司教区のMarie Daniel Dadiet名誉大司教によって司式されました。

創設は60年より少し前にカナダからの会員たちによって始められ、それからフランスとスイスからの会員たちによって受け継がれました。今日、この従属地区は38名の会員を数え、彼らの殆どがコートジボワール人です。更にマリアニスト家族の4つの枝が立派に存在しています。



Dadiet名譽大司教 コートジボワール従属地区のマリア会員と  
マリアニスト家族の他の枝のメンバーとともに

この60年間に及ぶマリアニストの存続に関して主に感謝しましょう。この記念式典がこの西アフリカの国でなされた宣教活動にとって大きな果実をもたらすよう祈りましょう。

## Gabrielle Maillet: 信徒マリアニストの聖性

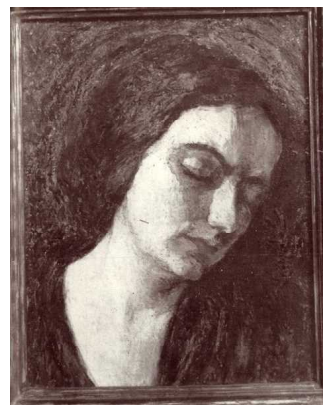
マリアニスト請願者によってこれまでに発起された全ての列聖請願は、男女マリアニスト修道者と一名の学生（Faustino）に関するものです。信徒マリアニストの誰もこれまで列聖のため提案されたことはありません。しかしながら信徒マリアニストの中に私たちは1人の偉大な霊的生活の人物を見出します：Gabrielle Maillet 嬢です。（パリ1904年－ボルドー1944年）

Gabrielle Mailletは、第2次世界大戦の困難な時期に、ボルドーのマドレーヌ聖堂と関係があった信徒アフィリエ・グループのマリアニスト奉獻者でした。Gabrielleは彼女の熱心な霊的生活のゆえに注目されていました。ボルドーで、彼女はマリアニスト司祭、Herbert G. Kramer師の霊的指導に自分を委ね、1939年8月15日、聖母被昇天の大祝日に、個人的な誓願をもって神に身を捧げました。世界大戦の猛威の状況下で、彼女は熱心な祈りの生活とキリスト教的な徳に支えられて、苦しむキリストに自分を重ね合わせ、自分の生と死を平和への捧げものとししました：「最も重要なことは愛であり、自分を与えること、謙遜であること、十字架の下で泣くことです。私にとって、十字架の下であらゆることが平和であり明瞭です。」

Gabrielleは虚弱体質で、くぼんだ目と真剣な表情をしていました。彼女は活発な知性と勉学に関する情熱に恵まれており、虚弱体質のためにいつも様々な中断を余儀なくされながらも、並外れたやり方で学校教育を続行しました。彼女は幼年期に母親と2人の最愛の姉妹、MarieとGeorgetteの死去に立ち会う辛い経験をしました。家族の事情で、彼女は1936年ボルドーで生活することになり、そこで文学の学士号を取得しました。

彼女の生涯は、彼女の知的賜物、親切さ、理解力、深い宗教精神、そして彼女の生徒たちに対する完全な献身ゆえに、聖Edith Stein(1891-1942)の生涯を思い起こさせます。彼女は神に身を捧げるこ

とを熱望し、カルメル会修道女になることを考えました。けれども、先生としての召命のために、彼女は生徒たちの人間的、靈的養成に身を捧げる決心をしました。生徒たちは全て彼女の説明の明快さ、彼女の寛大さ、その素晴らしい知性と権威を高く評価していました。彼女は子供たちが尊敬するただ一人の先生でした。子供たちは授業中一切悪ふざけをしませんでした、なぜなら、彼女は興味ある授業を行い、彼らの知識の視野を広げる術を知っていたからです。特に、この若い先生の深い内的生活は生徒たちに深い感銘を与えました。生徒たちは彼女が聖人だと言っていました。彼女の魂は苦しみによって特徴づけられていました。



1940年－1941年と1941年－1942年の学期は戦争のため大変困難な状況にありました。彼女の仕事はどんどん増えました；彼女は週38時間も授業を持っていて、この事が彼女の健康をむしばんでいきました。彼女の心臓は虚弱で、数回手術を受けました。Gabrielleは試練に直面しても常に穏やかで落ち着きを保ち、また受け入れていました。「私の召命は苦しむことです」、と常に笑みを浮かべて彼女は言っていました。1944年3月1日、彼女は亡くなりました。彼女の死に際して、かつての生徒1人は次のように書きました：「私たちは彼女に祈ったほうがいいのではないかと私には思えます」。

Gabrielleへの称賛が非常に深く感じられたので、彼女の死から5年後、Kramer神父は「キリストと共に苦しむ」という本（ニューヨーク、1949）を発行し、その一つの章をMaillet嬢に捧げました。「愛し、苦しむ心」というその章の表題は、Gabrielle Mailletの靈的な人間性を余すところなく現しています。

5年後、Mrs. Odette Buzyはマリア会員の国際誌「マリアの宣教者」（No 376, 1954 3月－4月 ページ188－195、206－210）において、「Gabrielle Maillet、古典言語の教師（1904－1944）」という表題で広範囲に及ぶ彼女の靈的描写を行いました。Gabrielle Mailletは聖人の民を集めるとの福者シャミナード師の計画を具現化しました。

## 福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード神父の列聖を求める祈り



教会のなかで、絶えず働き続けられる主よ、あなたは民の善のために、人々と共同体を通して、常にそのご意志を明らかに示されます。あなたは、使徒として、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード神父を選ばれ、福音に忠実に生き、人々の救いのために献身するよう、その活動を特別に導かれました。そして、あなたに身を捧げたシャミナード神父と同じ精神で生きる望みを人々に抱かせ、マリアの導きのもとに、教会に奉仕する男女の共同体を起こされました。後継者であるわたしたちが、福者シャミナード神父の取り次ぎによって願う(病人の回復)の恵みをお与えくださり、彼の聖徳を明らかにしてください。罪の汚れのないおとめマリアによって、父と子と聖霊が至るところでたたえられますように。アーメン。



## 訂 正

Via Latina 22 (2022年1月) の物故者リスト (Necrology) の John Alex Leies, SM (死亡通知30号) の年が間違っており、正しい年は95才です。

## 最近の総本部通信

- 訃報：1-5号
- 1月11日：(ともに歩む)教会のためー共同体の意見聴取ー総長André-Joseph Fétiş師から3か国語で行政単位の責任者とゾーン議長あて意見聴取書が送付。
- 1月24日：マリア会3部門157号ーマリアニスト連帯基金とマリアニスト養成基金の配分、3か国語で全てのマリアニスト会員に財務局長Michael McAward士から送付。

## 総本部日程

- 1月19日ー2月20日：総長評議員会がフランス管区を視察訪問

## メールアドレスの変更

- James Contadino士(US): [contadinojima@gmail.com](mailto:contadinojima@gmail.com)
- David Betz士(US): [dkbetzsm@gmail.com](mailto:dkbetzsm@gmail.com)